

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3690500024		
法人名	医療法人 恵愛会		
事業所名	グループホームのどか		
所在地	徳島県美馬市美馬町字沼田73-1		
自己評価作成日	平成29年12月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成30年2月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者が日々生き活きと笑顔で過ごせるよう日中の活動性を促し、脳トレや歌・体操・レクリエーションなどの支援に取り組んでいる。利用者の心身の状態や変化について毎日ミーティングで話し合い、対応の仕方を検討しケアに繋げるようにしている。また、ボランティア慰問を積極的に取り入れ、家族や地域の方々に声掛けし気軽に来訪していただくなどしながら日頃から交流を深めている。なお、敷地内には同一法人の医療機関があり、24時間医療連携体制が可能となっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者と職員は、利用者一人ひとりの尊厳と個性を尊重し、「いつも笑顔でやさしく楽しく」生活ができるよう支援に努めている。同一法人の運営する併設の医療機関と連携を密にし、重度化や緊急時24時間対応が可能にしており、利用者もリハビリテーションに意欲的に取り組んでいる。利用者や職員は、牛乳の空きパックを利用して椅子を作成したり、レクリエーションの道具を手作りしたりして、一緒にゲームを楽しんでいる。居間は、利用者や職員が活動しやすい造りとなっており、日中のほとんどをここで過ごし、ソファで会話を楽しんだり、ゲームやカラオケ、洗濯物量をしたり、その人らしく過ごしている。職員は、研修や多岐に渡る委員会活動を通してサービスの質の向上に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			らん	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を全職員で確認し合う意味から毎朝の申し送り時に理念を唱和、具体化することを意識し統一したケアに繋げている。	地域密着型サービスの意義について全職員で話し合い、事業所独自の理念を掲げている。職員は、日々のミーティングやケアの中で振り返りを行い、利用者と向き合う時間を大切にされたケアの実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りや行事等への参加、また定期的なボランティアや託児所の慰問等、交流の機会を設けている。事業所で行事を行う際には、地域住民に案内をしている。	事業所は、地域の一員として、地域住民に開催する行事の案内を行っている。併設託児所の子供たちの来訪や中学生の体験学習の場にもなっており、地域福祉の推進に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の「いきいきサロン」や事業所での行事を通じて地域住民との交流を深めるとともに、認知症への理解やケアの啓発に努めている。また、実習生の受け入れもしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、運営推進会議を開催している。現況報告や課題等について話し合ったり、地域の情報を提供してもらいながら、サービス向上に活かしている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。会議では、事業所の活動報告を行い、出席者から地域の情報を得ている。老人会や婦人会、認知症サポーターなどの多様なメンバーの出席による話し合いには至っていない。	報告や情報交換にとどまらず、双方向的な会議とし、具体的な課題や事例検討を話し合う機会とされたい。地域住民やボランティアの出席により、事業所が地域の福祉拠点となることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村の担当者には、運営推進会議に必ず参加してもらい、運営や現場の実情を伝えたり、直面した課題や対応方法について話し合い、共に取り組んでいる。また、認定更新の機会に利用者の生活状況やニーズを伝え連携を深めている。	職員は、市の担当窓口へ出向き、利用状況の報告を行っている。市で開催される研修会やグループホーム連携会議、多職種連携研修会に参加し、具体的な事例検討や地域医療福祉の連携づくりに取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止委員会を設け、定期的に勉強会を行っている。具体的にどのような行為が身体拘束になるか理解を深めるとともに、対応についても話し合い、身体拘束をしない支援を心がけている。	職員は、日頃のミーティングや勉強会、身体拘束禁止委員会を開催し、拘束の具体的な内容の理解や廃止に向けた取り組みについて共有化を図っている。全職員が見守りを中心とした支援を心がけ、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修への参加や定期的な勉強会を行い理解を深めるとともに、職員による虐待防止に努めている。また、言葉遣いにも十分注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			らん	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を開き、制度についての理解を深めている。現在、利用の必要な方はいないため支援に至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前の事業所見学を勧め、利用料や起こりうるリスク、重度化や医療連携体制の実際について詳しく説明し、同意を得るようにしている。不安や疑問がないか、面談時に話を聞くようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族に意見や要望を出してもらえよう配慮したり、面会、家族会等の機会に意見を聞くようにしている。常日頃から何でも言ってもらえるような雰囲気作りを留意している。	事業所は、日頃から利用者の思いを汲み取ることのできる雰囲気づくりを心がけている。家族の来訪時には、気軽に意見や要望を表出しやすい関係づくりに努めている。家族会で出された意見は、職員間で話し合い、運営面に反映している。来訪の困難な家族には、「のどかだより」を送付し、利用者の日頃の状況を伝え、意見を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は現場の職員から利用者の現況や要望を聴く機会を持つことを心掛けている。また、ミーティング、勉強会等でコミュニケーションを図るようにしている。	事業所では、ミーティングや勉強会を開催し、職員の率直な意見や提案に耳を傾けている。また、代表者と管理者は、日頃の業務を通じて職員の意向を把握するよう努めている。把握した意見や提案は、サービスの質の向上に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得が給料の改善につながり、研修は参加費等で支援する制度があり、向上心を持って働けるよう努めている。疲労やストレスにも気配りし、気分転換できる場を心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験、習熟度等に応じて、外部研修への参加を計画的に実施するとともに、自主参加を支援している。また、外部研修報告をもとに事業所内研修を実施し、全職員が共有できるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連携会議を年3～4回開催、各事業所とその職員相互の親睦を図り、サービスの質の向上を目指すことにより地域医療、介護連携に貢献することを目的に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			らん 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	必ず事前面談で生活状況や心身の状態を把握するようにしている。本人の思いに向き合い、職員が本人に受け入れられる関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの家族の苦労や今までのサービス利用状況などの経緯をしっかりと聞き、家族が今いちばん困っていることを受け止めるよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思い、状況等を確認し改善に向けた支援の提案、相談をしながら信頼関係を築き必要なサービスにつなげている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを職員が共有しており、共に過ごす者同士としてお互いが協働しながらより良い関係性を築けるよう心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時には、利用者の日頃の様子や職員の思いをきめ細かく伝えることを心がけており、本人を共に支えていくための協力関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域に暮らす馴染みの知人や友人との関係が継続できるよう、来訪時にはいつでも会いに来てもらえるよう働きかけている。	職員は、本人や家族から馴染みの人や場所を聞き、把握に努めている。家族の協力を得たうえで、墓参りや馴染みの理・美容院の利用を支援している。いきいきサロンや同一法人の運営する併設の医療機関にリハビリに通うことにより、馴染みの方との交流も図っている。友人の来訪時には、居室やソファで気兼ねなく会話を楽しむことができるよう配慮をするなど、利用者が大切な時間を過ごせるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は、利用者同士の関係を把握し、個別に相談に乗ったり、気の合う仲間と過ごせるよう橋渡しをしながら、利用者同士の関係が円滑になるよう働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			らん	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ移られたり入院された場合には、アセスメントや支援状況等を手渡すとともに、きめ細かい連携を心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、思いや希望、意向などの把握に努めている。把握が困難な場合は、言葉や表情などから思いを汲み取ったり、職員間で話し合ったり家族からも情報を得るようにしている。	職員は、日頃の利用者との関わりの中で、表情や会話から一人ひとりの意向を把握するように努めている。利用者のしたいことやできることを職員間で話し合い、最良の暮らし方を検討している。全職員でケア実践方法の共有化に向けて取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人のバックグラウンドを、本人をはじめ家族や友人等から情報を聞く中で把握に努め、本人が有する力を発揮しながら自分らしく暮らせるよう働きかけ、経過を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、ミーティングで利用者の状況を話し合い、できること、わかる力を把握するとともに、チームで共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者、家族の要望や職員の意見、アイデア等を反映し、本人が持てる力を発揮しより良く暮らしていけるよう介護計画を作成している。また、状態の変化に応じてアセスメントやモニタリングを実施し、ケアにつなげている。	事業所では、本人や家族、担当者から意見や情報を得て、利用者の持つ力を継続して発揮できるよう介護計画に取り入れている。定期的なモニタリングを行い、利用者の状態の変化に応じて、見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌に気づきを具体的に記入し、情報共有を行っている。変化があった場合、その都度申し送り、ミーティング時に話し合い、ケアの実践や見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族のニーズに対応できるよう多職種とも連携し支援に取り組んだり、状況に応じて通院や送迎、外出等柔軟に対応し、個々の満足度を高められるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			らん	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者のニーズに応じたサービスが必要に応じて提供できるよう、地域住民や包括支援センターとの情報交換により地域資源の把握に努め、支援につなげている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に受診状況を把握し、本人、家族が希望するかかりつけ医となっている。また、訪問診療に来てもらうこともある。他病院には、必要に応じて普段の様子や変化等の情報提供を行い、受診結果についても家族と情報共有をしている。	事業所では、本人や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。また、訪問診療や常勤の看護師による体調管理を行っている。重度化や緊急時には協力医療機関が対応する体制を築くなどして、利用者と家族の安心に繋げている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護職員を配置しており、利用者の日常的な健康管理や状態変化に応じた支援を行っている。体調の些細な変化を見逃さないよう、早期発見に取り組み、適切な医療につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院によるダメージを極力防ぐために、医療機関に対して事前に本人に関する情報提供をすると共に、医師と話し合う機会を持ち、事業所内で対応可能な段階で、なるべく早く退院できるようアプローチしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の段階で、重度化した場合の対応や終末期において事業所としてでき得ることについての説明を行っている。また、状況変化に応じて本人・家族の安心と納得を得られるよう、医療とも連携しながら話し合いの機会を持ち、対応方法を検討している。	契約時の段階で、本人や家族に終末期の方針等を説明している。事業所は、状況に応じて利用者や家族の意向の把握を繰り返し行い、主治医を含めた関係者間で話し合い、具体的な対応方針の共有化を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署による救急救命法や蘇生術の研修を実施したり、看護職員から応急処置の仕方を学び全職員が実践力を身に付けられるようにしている。また、夜勤時の緊急時対応についてもケースを想定した話し合いを随時行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方などの訓練を定期的に行っている。また、災害に備え、食料、飲料水等を準備している。	年2回、消防署の参加を得て、避難訓練を実施し、消火訓練や救急救命法などの実践的な取り組みを行っている。災害時の対応マニュアルを作成し、食料などの備蓄を準備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			らん	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩であり、人格者であることを常に忘れず、援助が必要な時も、まずは本人の気持ちを大切に考えてさりげないケアを心掛けたり、自己決定しやすい言葉かけをするよう努めている。	職員は、利用者の尊厳とプライバシーの確保のために、利用者本位の支援に努めている。事業所では、日頃から、利用者が自己決定しやすいよう声かけや対応方法の工夫について話し合い、利用者の希望する介助ができるよう全職員で心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの状態に合わせ、本人が答えやすく、選びやすいような働きかけをしたり、些細なことでも本人が(する・しない等)決められる場面を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な日程はあるが、1日の過ごし方については無理強いせず本人のペースを大切に、希望に添えるよう柔軟な対応を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人のこだわり(衣服・ヘアスタイル・ヘアカラー等)を把握し、その人らしさを保てるような支援を心掛けている。馴染みの理髪店の利用したり、外出が難しい方には美容師の資格を持つ職員によるヘアカットを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材や畑で採れた新鮮な野菜を調理し、季節感を味わってもらっている。一人ひとりに合わせて食事の形態を考え、できるだけ自分で食べることができ、食事が楽しみなものとなるよう支援している。	食事は、事業所内の菜園の野菜を使用し、調理している。バーベキューや家族会での食事等の機会があり、利用者の楽しみとなっている。嚥下障害をもつ方も他の利用者や職員と同じテーブルを囲み、楽しく食事を行うことにより、摂取量の増加や生きる力の向上に結びついている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事摂取量、水分摂取量を把握している。状態に合わせて、看護師や管理栄養士のアドバイスを受け、本人の食生活を様々な面から共に支援するよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の状態に合わせて、毎食後、歯磨きや義歯洗浄、ポリドントの使用等、口腔内の清潔保持に努めている。また、必要に応じて訪問診療による義歯調整や口腔ケアを利用したり、アドバイスを受けるなどしながら支援につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			らん	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄状態や排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を大切にしながら、紙パンツ、パット類も本人に合わせて検討している。	職員は、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、介助を心がけている。課題や改善点を排泄改善委員会で話し合い、職員間で検討し、実践することにより、トイレでの排泄支援や利用者の身体機能の向上に繋がっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操と水分補給の徹底を行い、便秘予防に取り組んでいる。便秘がちな方に対しては下剤を使用することもあるが、個々の状態に合わせて薬を調整したり、看護師による滴便を行うなどしながら本人の負担にならないよう心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の体調や希望に合わせて、柔軟に支援している。重度の利用者については、安全面を優先し特浴を利用するなど個々にあった入浴支援をしている。	事業所では、入浴日を定めているが、利用者一人ひとりの希望を尊重した柔軟な対応をしている。入浴を拒む方には、職員からの声かけを工夫している。また、特浴を整備し、利用者の身体状況の変化に応じた入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動性を高め、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。眠剤を飲まれている方には睡眠状況を把握し、日中の活動の妨げになっていないかを確認している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の薬の処方、効能、副作用の説明書をファイルにし、全職員にわかるようにしている。また、日常の記録を医療と連携できるようにし、状態変化があった時は情報提供をし、治療や服薬調整に活かしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえるよう、お願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。嗜好品についても、お茶の時間に配慮しながら支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	春にはお花見、秋は菊祭りなど近隣の季節の花を見に行ったり、担当者と一緒にいきたい場所に社会見学に出かけたりしている。また、庭で日向ぼっこや散歩等、日常的に外出の支援をしている。家族の協力で、外出希望があれば出かけられるよう支援している。	事業所では、日頃から近隣の散歩や買い物に出かけ、芝生スペースで日向ぼっこなどを行っている。また家族の協力を得て、一時帰宅や散髪に出かけている。年2回の社会見学では、車椅子対応車両で、喫茶店や買い物、ドライブなど利用者一人ひとりの望む場所への外出支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			らん	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人や家族の希望で、小額のお金を持っている人もいます。管理できない方は、必要に応じて、事業所が立替え利用していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年、年賀状を出す支援を欠かさずに行い、利用者の希望に応じて、電話を使用することを個別に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間が不快を招かないよう、清潔を保つため細めに掃除している。また、四季を感じてもらえるよう花を飾ったり壁面に行事や外出時等の写真、作品を展示して、居心地の良い空間作りに努めている。	共用空間は、広く、大きな窓から住み慣れた地域の山や畑が見渡せ、トイレ等もわかりやすい。利用者は、日中のほとんどを居間で過ごし、ソファで会話を楽しんだり、ゲームやカラオケ、洗濯物畳みをしたりと、その人らしく過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下やフロアにソファや椅子を置き、一人で過ごしたり、仲の良い利用者同士が日光浴をしたりくつろげるスペースがある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者や家族の希望で、テレビや好みの家具等を置いている。入居後は家族との写真を飾ったり、安らぎを感じられるよう担当者本人が相談しながら居心地の良い居室作りを支援している。	居室の窓は広く開放的で、景色や季節の移り変わりを眺めることができる。自宅と変わりなく生活できるようにテレビや鉢植えなど、馴染みのものを持ち込んでもらっている。携帯電話で気兼ねなく家族と連絡を取り合っている方もあり、一人ひとりが落ち着いて過ごせる環境づくりを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアはバリアフリーであり、動線上は手すりをつけている。利用者の身体機能に合わせ、歩行器に目印を付ける等工夫し、危険防止、混乱を招かないよう配慮している。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ゆり 実践状況	実践状況	実践状況
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を全職員で確認し合う意味から毎朝の申し送り時に理念を唱和、具体化することを意識し統一したケアに繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りや行事等への参加、また定期的なボランティアや託児所の慰問等、交流の機会を設けている。事業所で行事を行う際には、地域住民に案内をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の「いきいきサロン」や事業所での行事を通じて地域住民との交流を深めるとともに、認知症への理解やケアの啓発に努めている。また、実習生の受け入れも行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、運営推進会議を開催している。現況報告や課題等について話し合ったり、地域の情報を提供してもらいながら、サービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村の担当者には、運営推進会議に必ず参加してもらい、運営や現場の実情を伝えたり、直面した課題や対応方法について話し合い、共に取り組んでいる。また、認定更新の機会に利用者の生活状況やニーズを伝え連携を深めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止委員会を設け、定期的に勉強会を行っている。具体的にどのような行為が身体拘束になるか理解を深めるとともに、対応についても話し合い、身体拘束をしない支援を心がけている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修への参加や定期的な勉強会を行い理解を深めるとともに、職員による虐待防止に努めている。また、言葉遣いにも十分注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ゆり 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を開き、制度についての理解を深めている。現在、利用の必要な方はいないため支援に至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前の事業所見学を勧め、利用料や起こりうるリスク、重度化や医療連携体制の実際について詳しく説明し、同意を得るようにしている。不安や疑問がないか、面談時に話を聞くようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族に意見や要望を出してもらえよう配慮したり、面会、家族会等の機会に意見を聞くようにしている。常日頃から何でも言ってもらえるような雰囲気作りに留意している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は現場の職員から利用者の現況や要望を聴く機会を持つことを心掛けている。また、ミーティング、勉強会等でコミュニケーションを図るようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得が給料の改善につながり、研修は参加費等で支援する制度があり、向上心を持って働けるよう努めている。疲労やストレスにも気配りし、気分転換できる場を心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験、習熟度等に応じて、外部研修への参加を計画的に実施するとともに、自主参加を支援している。また、外部研修報告をもとに事業所内研修を実施し、全職員が共有できるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連携会議を年3～4回開催、各事業所とその職員相互の親睦を図り、サービスの質の向上を目指すことにより地域医療、介護連携に貢献することを目的に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ゆり 実践状況	実践状況	実践状況
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	必ず事前面談で生活状況や心身の状態を把握するようにしている。本人の思いに向き合い、職員が本人に受け入れられる関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの家族の苦労や今までのサービス利用状況などの経緯をしっかりと聞き、家族が今いちばん困っていることを受け止めるよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思い、状況等を確認し改善に向けた支援の提案、相談をしながら信頼関係を築き必要なサービスにつなげている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを職員が共有しており、共に過ごす者同士としてお互いが協働しながらより良い関係性を築けるよう心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時には、利用者の日頃の様子や職員の思いをきめ細かく伝えることを心がけており、本人を共に支えていくための協力関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域に暮らす馴染みの知人や友人との関係が継続できるよう、来訪時にはいつでも会いに来てもらえるよう働きかけている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は、利用者同士の関係を把握し、個別に相談に乗ったり、気の合う仲間と過ごせるよう橋渡しをしながら、利用者同士の関係が円滑になるよう働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ゆり 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ移られたり入院された場合には、アセスメントや支援状況等を手渡すとともに、きめ細かい連携を心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、思いや希望、意向などの把握に努めている。把握が困難な場合は、言葉や表情などから思いを汲み取ったり、職員間で話し合ったり家族からも情報を得るようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人のバックグラウンドを、本人をはじめ家族や友人等から情報を聞く中で把握に努め、本人が有する力を発揮しながら自分らしく暮らせるよう働きかけ、経過を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、ミーティングで利用者の状況を話し合い、できること、わかる力を把握するとともに、チームで共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者、家族の要望や職員の意見、アイデア等を反映し、本人が持てる力を発揮しより良く暮らしていけるよう介護計画を作成している。また、状態の変化に応じてアセスメントやモニタリングを実施し、ケアにつなげている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌に気づきを具体的に記入し、情報共有を行っている。変化があった場合、その都度申し送り、ミーティング時に話し合い、ケアの実践や見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族のニーズに対応できるよう多職種とも連携し支援に取り組んだり、状況に応じて通院や送迎、外出等柔軟に対応し、個々の満足度を高められるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ゆり 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者のニーズに応じたサービスが必要に応じて提供できるよう、地域住民や包括支援センターとの情報交換により地域資源の把握に努め、支援につなげている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に受診状況を把握し、本人、家族が希望するかかりつけ医となっている。また、訪問診療に来てもらうこともある。他病院には、必要に応じて普段の様子や変化等の情報提供を行い、受診結果についても家族と情報共有をしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護職員を配置しており、利用者の日常的な健康管理や状態変化に応じた支援を行っている。体調の些細な変化を見逃さないよう、早期発見に取り組み、適切な医療につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院によるダメージを極力防ぐために、医療機関に対して事前に本人に関する情報提供をすると共に、医師と話し合う機会を持ち、事業所内で対応可能な段階で、なるべく早く退院できるようアプローチしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の段階で、重度化した場合の対応や終末期において事業所としてでき得ることについての説明を行っている。また、状況変化に応じて本人・家族の安心と納得を得られるよう、医療とも連携しながら話し合いの機会を持ち、対応方法を検討している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署による救急救命法や蘇生術の研修を実施したり、看護職員から応急処置の仕方を学び全職員が実践力を身に付けられるようにしている。また、夜勤時の緊急時対応についてもケースを想定した話し合いを随時行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方などの訓練を定期的に行っている。また、災害に備え、食料、飲料水等を準備している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ゆり 実践状況	実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩であり、人格者であることを常に忘れず、援助が必要な時も、まずは本人の気持ちを大切に考えてさりげないケアを心掛けたり、自己決定しやすい言葉かけをするよう努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの状態に合わせ、本人が答えやすく、選びやすいような働きかけをしたり、些細なことでも本人が(する・しない等)決められる場面を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な日程はあるが、1日の過ごし方については無理強いせず本人のペースを大切に、希望に添えるよう柔軟な対応を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人のこだわり(衣服・ヘアスタイル・ヘアカラー等)を把握し、その人らしさを保てるような支援を心掛けている。馴染みの理髪店の利用したり、外出が難しい方には美容師の資格を持つ職員によるヘアカットを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材や畑で採れた新鮮な野菜を調理し、季節感を味わってもらっている。一人ひとりに合わせて食事の形態を考え、できるだけ自分で食べることができ、食事が楽しみなものとなるよう支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事摂取量、水分摂取量を把握している。状態に合わせて、看護師や管理栄養士のアドバイスを受け、本人の食生活を様々な面から共に支援するよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の状態に合わせて、毎食後、歯磨きや義歯洗浄、ポリドントの使用等、口腔内の清潔保持に努めている。また、必要に応じて訪問診療による義歯調整や口腔ケアを利用したり、アドバイスを受けるなどしながら支援につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ゆり 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄状態や排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を大切にしながら、紙パンツ、パット類も本人に合わせて検討している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操と水分補給の徹底を行い、便秘予防に取り組んでいる。便秘がちな方に対しては下剤を使用することもあるが、個々の状態に合わせて薬を調整したり、看護師による滴便を行うなどしながら本人の負担にならないよう心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の体調や希望に合わせて、柔軟に支援している。重度の利用者については、安全を優先し特浴を利用するなど個々にあった入浴支援をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動性を高め、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。眠剤を飲まれている方には睡眠状況を把握し、日中の活動の妨げになっていないかを確認している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の薬の処方、効能、副作用の説明書をファイルにし、全職員にわかるようにしている。また、日常の記録を医療と連携できるようにし、状態変化があった時は情報提供をし、治療や服薬調整に活かしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえるよう、お願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。嗜好品についても、お茶の時間に配慮しながら支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	春にはお花見、秋は菊祭りなど近隣の季節の花を見に行ったり、担当者と一緒にいきたい場所に社会見学に出かけたりしている。また、庭で日向ぼっこや散歩等、日常的に外出の支援をしている。家族の協力で、外出希望があれば出かけられるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ゆり 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人や家族の希望で、小額のお金を持っている人もいます。管理できない方は、必要に応じて、事業所が立替え利用していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年、年賀状を出す支援を欠かさずに行い、利用者の希望に応じて、電話を使用することを個別に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間が不快を招かないよう、清潔を保つため細めに掃除している。また、四季を感じてもらえるよう花を飾ったり壁面に行事や外出時等の写真、作品を展示して、居心地の良い空間作りに努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下やフロアーにソファや椅子を置き、一人で過ごしたり、仲の良い利用者同士が日光浴をしたりくつろげるスペースがある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者や家族の希望で、テレビや好みの家具等を置いている。入居後は家族との写真を飾ったり、安らぎを感じられるよう担当者本人が相談しながら居心地の良い居室作りを支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアーはバリアフリーであり、動線上は手すりをつけている。利用者の身体機能に合わせ、歩行器に目印を付ける等工夫し、危険防止、混乱を招かないよう配慮している。		